

きらめき人

地域の大事な伝統文化を継承する役割がある。

入 谷旧林際小学校の体育館では、この時期の風物詩となった『しめ縄づくり』が始まっている。

この日、作業に打ち込んでいた、近くに住む山内貞行さんは「かつては、どの農家も行っていた仕事だけど、最近めっきり減ってしまった。でも、これは先人たちの技だし、文化だ。遺さないためだ」。寂し気な眼差しも一瞬、すぐに力強く話してくれた。

さらに「この地域に生まれ育って身近に感じていたことを、俺たちの代で途絶えさせたくない。ささやかな抵抗さ」と笑いながら丁寧に編み続けている。

貞行さんは、住民の交流などにも積極的に取り組み、地域の高齢者にグラウンドゴルフを勧めるなどコミュニティスポーツの推進者でもある。

南三陸町教育委員会から任命されたスポーツ推進委員会会長という側面も持ち、永年の活躍が認められ全国表彰を受けたこともあるのだが、きっかけは若い頃引き受けた体育振興員。「もう40年も前だけど、入谷地区運動会にみんなを出場させて楽しませたいと思った。その頃は住民の数も多くなって選手選考が大変だった」と振り返る。続けて「震災前までやってきた運動会を復活させたいね。若い人たちの奮起にも期待している」とも。年内は体育館でしめ縄づくり、時には校庭でグラウンドゴルフ。伝承と交流の日々が続く。

SADAYUKI YAMAUCHI



正月飾り用として注文に応じ作っているが、産直でも一般販売する。「利益なんて出ないけど80歳代の先輩が頑張っているから手伝っている。興味のある人はぜひ体験してほしい」

山内 貞行さん ①桜葉沢



自身も兼業農家として稲作を行う西城さん。天日干しするお米は毎年好評で足りないくらい、と笑います。

KATSUSHI SAIJO

稲 刈りを終えた田んぼに入る、ひときわ目を引くキャタピラ車。生ごみを分別してエネルギーに変えるバイオガス施設「南三陸BIO」で出る副産物の液体肥料の散布車だ。

液体散布を行う有限会社山藤運輸の西城勝志さんは、もともと製造業で工場に勤務していた。東日本大震災を機に「地元」に貢献できるような仕事をしたい」という一心で20年間勤めてきた会社を退職。未経験だった運送業に飛び込んだ。ちょうどその頃、町は循環型社会を理想とし、その実現に向けて歩み始めた時だった。

「15年ほど前に、循環とかバイオマスについて本を読んだりして一人で学んでいたんです。この土地を生かすには、それしかないかなと思っていました。ですが、まさかこうして、何年もたつてから直接的に関わることになるとは思っていません。たですな」と笑う。稲作では年に2回、春と秋に液体肥料を散布。里の資源を循環させる大切な役割を担っている。

「地域の農家さんのお役に立てたと実感できたり、社会科見学や出張講座のときに子どもたちが楽しそうにしていたり。そういう場面に出会えるのがこの仕事のやりがいです。循環型社会への取り組みもまだまだ手探りだけど、10年後、20年後によい結果になっていると良いなと思ってやっています」

西城 勝志さん ②中の町

農家と子どもたちの笑顔が仕事のやりがい。

ひとめぐり